|  |
| --- |
| **資料９－１** |

資料8

**がん医療フォーラム柏2017　　～がん患者さんを地域で支える**

**2017年6月30日版**

**正力厚生会作成・提案**

資料8

**――市民が望むがん医療と福祉のかたちとは　　［市民向け企画案］**

「地域におけるがん患者の療養支援情報　普及と活用プロジェクト」フォーラム　in　柏　2017

|  |
| --- |
| 2人に1人がかかるという、がん。そんななか、「がんになっても安心して暮らせる社会」をめざして、さまざまな取り組みが始まっています。「がん患者さんが住み慣れた地域で、在宅で過ごす」「がんを経験した方を支える」仕組みに向けて、情報の共有と連携、支援の必要性について議論します。共　催　：柏市医師会／地域におけるがん患者の緩和ケアと療養支援情報　普及と活用プロジェクト特別後援：公益財団法人正力厚生会、読売新聞今回は、療養支援情報プロジェクト（略称）と柏市の「顔のみえる関係会議」が協同して、それぞれが長年積み上げてきた成果や課題を共有し、今後の拡がりにつなげたいと考えています日　時　：2017年10月29日（日）13時00分～16時30分（開場　12時30分）会　場　：ザ・クレストホテル柏　クレストルーム対　象　：がんの患者さんとそのご家族、がん経験者（がんサバイバー）、在宅での療養支援について関心のある方、医療従事者、介護福祉関係者、行政担当者など参加費　：無料　定員：300名 |

【プログラム（案）】

開催あいさつ　　秋山　浩保（柏市長）・辻　哲夫（正力厚生会理事長）

　第1部　シンポジウム　　≪がんとの共生　市民が望む医療・福祉のあり方を考える≫

モデレーター／長瀬　慈村先生（柏市医師会副会長）・渡邊清高（帝京大学腫瘍内科）

・がん患者さんとご家族を支える情報づくりと地域づくり　渡邊　清高

・がん患者さんとご家族を支える相談窓口（仮題）坂本　はと恵（国立がん研究センター東病院）

・がん患者さんとともに考える食事（仮題）　川口　美喜子（大妻女子大学家政学部食物学科）

第2部　フォーラム［顔の見える関係会議の皆さまで人選や企画を検討］

テーマ：がんになっても安心して住み続けることのできるまちづくり～柏市の在宅医療の現場から

登壇者（候補）／在宅医・訪問看護・介護福祉・行政・市民・高校生（医療従事者志望）など

◇多職種の代表などが、在宅療養・生活支援で苦労していること・やってよかったこと・地域医療への期待・参加者に伝えたいこと・参加した人に知っていただきたいことを発表＋質問票に基づきやりとり⇒７月20日の顔の見える関係会議（研修会）で方向性、たたき台を固める予定

まとめ・閉会あいさつ

【フォーラム開催後のアウトプットのイメージ(案)】

〇がんの在宅療法　ウェブサイトでの成果発信（開催記録とアンケート）

各地で実施した同種のフォーラムに続くような開催記録とする

1. 各地域のモデルを参考に同様のフォーラムが医療・介護・福祉の垣根を超えるものとして実施できるようにしたい。
2. 開催の様子は、ウェブサイト（「がんの在宅療養」（http://homecare.umin.jp）でも紹介予定。「地域におけるがん患者の療養支援情報　普及活用プロジェクト」でウェブサイトに掲載。

以上